

会員セミナー(1/3)

講演 「職業奉仕とこれからの国際奉仕のあり方」



RI第2600地区パストガバナー

横田 盛廣 氏

《ロータリー略歴》

昭和48(1973)年3月2日入会

2003-04年度 飯田南ロータリークラブ会長

2006-07年度 国際ロータリー第2600地区ガバナー

現在 国際ロータリー
第2600地区職業奉仕委員会カウンセラー

プロローグ

皆さんこんにちは。地元で話すのは話しづらいというか、気が小さいので緊張していますが、どうぞよろしくお願ひします。IMでスピーチする機会をつくっていただいたことは、大変光栄に思っています。

地域社会も国際社会もそれぞれ大きな変化に直面しています。

先ず地域社会ですが、少子高齢化が進み人口減少が加速し「人口半減社会」へ突入する危険をはらんでいます。

国立社会福祉人口問題研究所の資料によれば

飯田市の人口 103,120人が2040年には79,860人(Δ23,152人)

松川町 // 13,370人が // 9,963人(Δ3,407人) 129,520人

高森町 // 13,138人が // 12,076人(Δ1,064人) 101,879人

(Δ27,621人)

人口減少は当然生産人口の減少と高齢者福祉費用の増大をもたらします。このままでは限界地域となってしまいます。農・林・商・工共に立ち行かなくなると思ひます。危機感を持って、知恵を集め、地域を挙げて対策を講じていかねばなりません。その解決策の一つが男女共同参画社会への脱皮です。70歳定年説の実践です。もう一つが世界から人材を集めることです。現在飯田市には2100人程の外国籍市民が居住していますが、これを8000人に増やして小さな世界都市を目指す多文化共生社会をつくるのが肝要となります。ロータリークラブも危機感を持って長期戦略を策定しサバイバル戦に生き残らねばなりません。(会員数の維持・高齢化による奉仕活動の減退・青少年育成と地域への定住化責任の増大・RCの存在性・公共イメージの高揚)

国際社会は、現在70億人の人口が今世紀中に90億人時代に入り貧富の差拡大、食糧、水、エネルギー不足が深刻化し資源争奪戦が激化します。同時に先進国と新興国のせめぎ合いが激化し、グローバル化と多様化、無極化が進みます。

ロータリーも地域社会や世界の変化の中で進化しロータリーの価値観を高めて行かねばなりません。存在価値を高めて行かねばなりません。

前置きが長くなりましたが、本題に入ります。

職業奉仕について

R I 元会長ビル・ボイド氏は「もしロータリーが消えてしまったら、地域社会は嘆くでしょうか」と質問されました。答えは残念ながら半々位でした。ボイド氏は「若い世代の人々にロータリーの魅力や誇りを伝えて下さい」「奉仕を実践し感動を与えて下さい」「ロータリーの根源である職業奉仕の重要性を示しアピールして下さい」と強調されました。

職業奉仕はロータリーの基本だ。原点だと言って来ましたが、現実的に職業奉仕とは？ばっと答えられる会員は少ないと思います。「職業を通じて地域社会に奉仕する」当たり前のことですが、明確さを欠いています。ロータリーもいろいろな時代的变化を想定してスローペースではあっても変化し続けています。ポール・ハリスは「ロータリーは回顧主義の組織ではありません。過去の業績ではなく、むしろ将来の活動に、その価値と目的を置いているのです。私たちは有為転変の世の中に生かされている以上、ロータリーも同様に变化する心構えが必要です」109年前にロータリー、イノベーションを喝破しています。すごいですね。先見の明がありますね。R I 会長は年々生き残りのための変革を実践しようとチャレンジしているのですが、それが地区に伝わりクラブに伝わり、地域の理解と共感を得るには時間がかかる訳です。各国毎に、各地域毎の違いを反映できないジレンマに陥り進展を遅らせている面もあるのです。

さてここで職業奉仕の歴史を繙き（ひもとき）おさらいをしましょう。原点を確認しましょう。「職業を通じて社会に奉仕する」曖昧で分かり難い定義を明らかにしていきたいと思います。1905年頃のシカゴは非道徳で不正な商売が跋扈し、暴力や犯罪が蔓延する末期的な荒れ果てた町でした。ポール・ハリスは現状を見て嘆き悲しくなり自分の理想との乖離に淋しくなったのです。よし！！シカゴを良い正しい町にしようと決意し倫理観、正義感に燃え立ち上がったのです。

その熱い志に賛同した三人の仲間が、シルベスター・シール、ガスターバスローア、ハイラム・ショーレです。「職業奉仕を通じて地域を変革しよう。良い社会にしよう。＝職業奉仕の理念」正義の旗の元に同志が次第に増えていき、街が変わり始めたのです。

ポール・ハリスと同志たちの熱い志を理論的、哲学的にまとめ基礎を固めたのが三人の賢人です。アーサー・F・シェルドン（最もよく奉仕する者、最も多く報われる・・・ロータリーサブ公式テーマ）、フランクリン・Bコリンズ（「超我の奉仕」ロータリー第一標語）、チェスリー・R・ペリー（32年間事務総長を務めたオーガナイザー）3人は倫理観に則った職業を世に広めようとする高い志の持ち主でした。ポール・ハリスの正義感と自分の地域への愛情に共鳴しポール・ハリスを積極的に輔けたのです。（1917年＜ロータリー始期から12年後＞社会奉仕を主軸としたライオンズクラブが創立され、ロータリーの職業奉仕主軸との違いを鮮明にしたのです）「超我の奉仕」は中国の孔子が紀元前500年前残した「義を見て利を思え」、江戸時代の思想家、石田梅岩の「先義後利」、フィリップ・コトラの「他人の利益を囚らずして自分の繁栄はない」、南園義一R I 元理事の「職業奉仕＝倫理に基づく自分の職業・・・儲けること、与えること」など東洋も西洋も「職業の持続的存在は倫理と正義の中にこそ存在する」との共通した考え方に立脚していることが理解できると思います。ロータリーの職業奉仕は正に「真理であり哲学である」と言っても過言ではないと思います。

桜井よしこ氏は週刊ダイヤモンドへ「日本よ、おまえもか、商人の道徳はどこに？」と寄稿しています。食材偽装、老人相手の詐欺、JR北海道など中国を笑えないような事例が沢山出ています。「今こそロータリーの職業奉仕の実践が定番ですね」



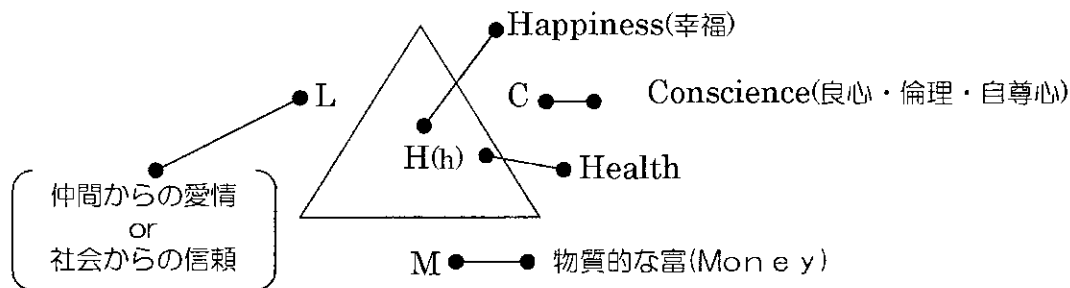
会員セミナー(2/3)

(ロータリーの友10月号より抜粋)

・ロータリーの職業奉仕とは、自分の会社の経営活動を充実させることと、社員を大切にすることだと思えます。自分の仕事なくしては、ロータリー活動はできず、もちろん奉仕活動もできません。自社の経営活動をいかに充実させるかが、より良い奉仕活動を行っていく上で重要だと思えます。また、地域社会において信用のある仕事をすることも大切だと思えます。<前田満洋・八代南>

・顧客や地域社会の期待に応えられる存在価値のある企業、労使の信頼関係をもとに社員の個性と創造性が発揮されている企業、雇用をはじめ地域に密着し地域との共生を図っている企業、長期にわたって存続する強靱な企業、自らの職場がそのような企業になるよう日々努力する姿が、私はまさにロータリアンの「職業奉仕」の原点であると考えています。<瀧 誠司・徳島南>

◇ アーサーF シェルドンの哲学 (4つの三角形で説明している中の一つ)



「職業の安定と持続なくして奉仕活動は困難」であることが理解できます。

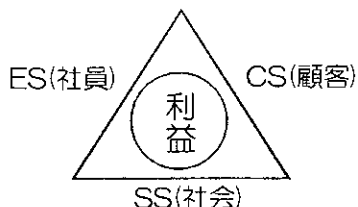
では世の中に役立つ会社にするにはどうしたら良いか。社会は変化していきます。企業の寿命30年と言ってから既に30年。今や企業の寿命は18年と言っています。どんどん変っているわけです。変えるためには何が必要か。情報と決断力、人脈など沢山あります。各クラブには金融機関の方や既に脱皮に成功した方がいらっしゃると思います。ロータリーが情報を得る機会、自分を鍛える場として活かしていくことが大切だと思います。ロータリーの価値を共有していきましょう。

(職業奉仕のまとめ)

①職業奉仕とは自分の職業をしっかりとやること

倫理、奉仕、適正利益、分配、持続

「よい会社をつくりましょう」伊那食品会長 塚越寛氏の理念



- ・良い会社になければ良い社員も来ない
- ・良い会社になければ社会奉仕も国際奉仕も出来ない
- ・社員の幸せ、顧客の満足、社会に役立つ仕事の実践によって適正利益が得られる

②職業奉仕とは企業の社会的責任を果たすこと＝CSR (フィリップ・コトラー)
(Corporate, Social, Responsibility)

税金、雇用、環境、安全、市民活動に参加、災害対策

③職業奉仕とは社会に役立ち、顧客の喜びをつくり適正利潤をステークホルダーに適正に分配し、財団、米山への寄付＝CSV (マイケル・ポーター) (Creating Shared Value)
共通価値の創造

・ロータリアンは職業奉仕は人生そのものであるとの自覚に立って、率先して正しいビジネスを実践すべし!!

・CSRとCSVは表裏の関係にあり同時に実践することが求められる。

国際奉仕について

国際奉仕には地域の国際化推進（内なる国際奉仕）と世界社会奉仕（外なる国際奉仕）があります。ここでは世界社会奉仕についてお話したいと思います。

2600地区では毎年3000万円程のR I 財団へ寄付を続けています。しかし複雑なシェア方式のためか一部のRCのマッチンググラントを除くと世界社会奉仕では殆んど活用していません。3年前の地区からの寄付金に対し50%が地区で活用することができるようになりました。25%が地区補助金、25%がグローバル補助金です。早速地区補助金の活用申請が地区内55クラブ中10クラブから出されました。下伊那グループでは飯田東クラブが申請し、世界社会奉仕活動へのチャレンジが始まったのです。地区への配分補助金とは別にR I の直接管理となるWCSがパッケージ補助金を含め50%あり、その活用如何によっては人道的奉仕活動（水・識字・ポリオ・疾病・紛争・職業教育・文化活動）の範囲が大きく広がり、実行への道が開けてきました。

R I の目標（大義）は「奉仕の理念で結ばれた職業人が世界的ネットワークを通じて国際理解と親善を進め世界の平和実現を推進する」と明記されています。

職業奉仕や一般的クラブ活動で手一杯。世界社会奉仕までとても無理とおっしゃる方もいらっしゃいます。

では、何故世界社会奉仕に取り組む必要があるのか？

- ① ロータリーはグローバルな存在として地球社会の平和に貢献する役割（責任・使命）を持っています。ロータリークラブもその一員として世界を俯瞰し、人道的活動を行いロータリーの価値観を高めていかねばなりません。
- ② 若い世代の会員を増強する、或は青少年の国際意識を昂揚してRCの魅力の増進、公共イメージの高揚、存在性の確立に努めていくことが大切です。
特に青少年の育成については、今の若い人たちがグローバル社会にどう生きていくかが重要な課題となっています。風越高校国際情報科でもそれらを熱心に研究し発表会を開き提言しています。国際交流推進協会の事業へも高校生の参加が増えています。
- ③ ロータリーは地域社会の未来像「小さな世界都市」づくりの一端を担いアジアに窓を開き交流人口増加を促進する役割を持っています

しかし海外のRCとタイアップするには、きっかけが必要になります。

幸いにも飯田市の公民館活動がPLSD（参加型地域開発＝participatory Local social Development）システムについて世界的評価を得ており、JICAのプロジェクトを引き継ぎフィリピンのレガスビにPLSDシステムの輸出を行っている情報を得ました。

その実績を現地で視察することになり、飯田東RCの宮嶋ガバナー補佐と共に1月26日～2月1日レガスビに行ってきました。

人口18万人の州郡でRCが4クラブあり、ローターアクトが3クラブ、インターアクトが1クラブで青少年育成に非常に熱心でした。

4クラブでの合同歓迎会で交流し、今後の世界社会奉仕について話し合いました。（4つのRC共に世界社会奉仕の未経験でした）

PLSD成果を見聞するためにプロ村、エスタンザ村、タイサン村、バンケロハン村、フマボン村へ訪問し、その「貧困」さに驚きました。椰子の葉っぱで屋根を作り、生活している部落、飲料水を得るために1時間もかけて買いに行く村、等々です。バンケロハン村で「今、何が一番必要か？」の問いに対し「水は無い。仕事ない。病院ない。学校は遠くて行けない。」

無い無いの連呼です。公民館のPLSD活動は経済的支援の前段階の共同体社会づくりに注力し、既に成果を上げている三つの村を視察することが出来ました。その中の一つ「プロ村」で水道施設の増設を熱望している様子を見て、東クラブの地区補助金申請を核として下伊那グループが協力して先ず実践する決意をし、その旨を発表しました。（約120万円程の予算）村民達は涙を流し全員の拍手で喜んでくれました。

会員セミナー(3/3)

人道的見地に立って貧困を少しでも緩和する支援については各クラブメンバーも理解頂けるものと確信しています。クラブ単独でやることには無理があるが、連携、連合体でやれば不可能ではないと考えており会長幹事会へも宮嶋ガバナー補佐を通じてお願いしています。(宮坂ガバナー、中川ガバナーエレクトも賛意を表していただいています)

これからのプロジェクト構想を考える一案として(現状私案)

年度内に下伊那グループの各RCから1名を出し、世界社会奉仕特別委員会をつくり、宮嶋さんを委員長として推進することが望ましいと考えています。

またプロ村水道増設完成後グループとして現地を視察し、レガスピRCとも交流したいと思います。

レガスピの市長は50歳で大変エネルギッシュなチャレンジャーです。ビジョンもしっかりしています。将来の構想目標は?「自然災害を克服し観光都市にする」「日本語教育を奨励しバイリンガル(2国語併用)として日本へ送り出したい」とのこと。飯田市、下伊那郡との交流に期待が持てました。

ロータリーと公民館の関係は、Bridging Partner(橋を掛けてくれたきっかけを作ってくれたパートナー)として協力関係を構築していきます。

7月レガスピ市長一行が飯田市を訪問する予定です。(セントラル・レガスピRC会長バンズエラ氏も同行される)

レガスピ4RCも世界社会奉仕活動は連合体が望ましいと思います。その方向で検討されるよう要請いたしました。

持ち時間が終わります。この辺で全体内容をまとめます。

- ① ロータリーの強み(類似奉仕団体との差別化戦略)を再確認し、独自の職業奉仕を徹底し強化していく。
 - ・良い会社をつくり、奉仕活動へのシェアに努める。
 - ・職業奉仕は職業の持続への道、奉仕活動の基盤である事を認識。
- ② ロータリー活動の活性化のために、市民、青少年、女性パワーの参加を求めロータリー運動に変換して行く。RIが提唱するRotary Community Corps = 地域社会共同体(RCC)を始動し主導する。(準ロータリーアンとの協同)
- ③ クラブ同志の連携、連合体によるグローバル社会対応型、世界社会奉仕を推進する。相手国のRCとの連携。戦略パートナーとのコラボレーション。(レガスピのピコール大学・ユネスコ・JICA・・・etc)

「ロータリーは自分を見つめるところ」

「ロータリーは自分を磨くところ」

ご清聴有難うございました。